

数学的な見方・考え方を働かせるための授業構成と

省察

—発問に着目して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系 (数学)

平成30年告示の高等学校学習指導要領解説数学編・理数編において、数学科の目標は「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。… (以下略)」と記載されている。このように、数学的活動を行う際にも数学的な見方・考え方を働かせることが前提であることに私は着目し、生徒が数学的な見方・考え方を働かせる授業構成がしたいと考え、特に発問に着目して授業を構成、実践し、省察するという一連の流れを通して、私が2年間の院生実習で得た学びを本報告書にまとめた。各単元における「数学的な見方・考え方を働かせる」とは何かを具体的にし、授業目標とした上で、授業展開では主発問以外の発問にも明確に意図を持ちながら実践した上で省察を行った。教師が生徒に対して行う発問や指示、まとめ方など細かな行動一つ一つに意図を持たせることで、授業後の自分の反省点がより明確になり、加えて他の授業者の授業力を吸収するための観察の視点を絞り込むことにも繋がったと感じている。今回の実践の経験を活かし、今後も教師としてのスキルアップに取り組んでいきたい。